

確認書（ステップアップコース ダイビングツアー用）

日本国内での使用に限ります。

署名、記入前に熟読してください。

私 _____（氏名）は、 _____（団体・ランク）の認定ダイバーであり、スキン及びスクーバダイビングに内在する危険性を認識し、また水中活動での基本的な安全原則を理解していることを認めます。

私は、 _____ から _____（日時）までの

1 _____（コース/ツアー名）で

2 _____（会社、ショップ、NAUI インストラクター、リーダーシップ保有者 以下インストラクター/リーダー）により開催されるコース/ツアーに参加するに際して、以下の点を良く理解し、了承します。

- （１）ダイビング活動における健康管理、器材の点検等、「NAUI が掲げる安全潜水の実践」の内容を認識しており、私に起こり得る危険な事態を回避するために努力し、何らかの異常を感じた時は、速やかにインストラクター/リーダーに連絡して指示に従うこと。
- （２）健康管理を含め、自分自身の責任においてダイビングを実施すること。
- （３）海況の悪化によりコース/ツアーが実施できないこと、コース/ツアーが中止、中断されること、潜水地域の移動があること。私は、このコース/ツアーの内容についてインストラクター/リーダーより充分説明を受け納得した上で自分自身の責任において参加します。

この確認書に署名することで、私がインストラクター/リーダーの指示に従わなかったこと、あるいは私自身の過失が原因で発生した損害については、私は、NAUI や上記 2 の関係者に対して、その賠償の請求を放棄することに同意いたします。

もし私が未成年である時は、私の親権者がこの書類に署名します。

私は、この確認書を熟読し了承しました。

参加者氏名 _____ 日付 20__年__月__日

（未成年の時）

親権者氏名 _____ 日付 20__年__月__日

上記 2 と参加者が各 1 部ずつ保有する。

NAUI が掲げる安全潜水の実践

ダイバーとして、安全にダイビングを楽しむために、以下の事項を実践すべきである。

1. 認定インストラクターによってスクーバダイビングのトレーニングを受け、認められた指導団体からその認定を受けること。
2. 精神的・肉体的にも、ダイビングに適した健康状態を保つこと。ダイビングは良好な健康状態の時のみ行うこと。ダイビング前には、アルコール類を摂取したり危険な薬品を服用しないこと。快適なダイビングの為に、定期健康診断を受けること。
3. 完全に作動し、正しく保守管理されたダイビング器材を用い、自ら各ダイブ前にその器材をチェックすること。非認定ダイバーに器材を貸さないこと。オープンウォーターでのスクーバダイビングの時には、BCと残圧計を使用し、場合によっては安全のため予備を用意すること。
4. 自分自身やバディの限界を知り、使用する器材の限界も理解しておくこと。適切な判断と常識で、各ダイビング計画を立案すること。緊急事態にも対応できるように、ダイビング計画に余裕を持たせておくこと。水中での時間や深度には適切な限界を設定しておくこと。
5. ダイビングロケーションを知ること。危険な場所や悪条件を避けること。
6. できるだけ容易にダイビングが行えるように浮力のコントロールを行うこと。必要に応じて、マスククリア、レギュレータクリア、スノーケルクリアができ、またウエイトを外したり、緊急浮上等ができること。緊急時には、止り、考え、コントロールを取り戻し、それから行動すること。
7. 決して単独でダイビングを行わないこと。お互いの器材を熟知し、いつもバディダイビングを行うこと。ハンドシグナルを知り、連絡を取りあうこと。
8. 必要があれば、水面サポートとしていつでも対応できるボートもしくはフロートを利用し、また、水面もしくは水中にダイバーがいることをボートに知らせるためにダイブフラッグを掲げること。障害物に気を付け、目と耳で確認しながら、ゆっくりと水面にあるフロートやフラッグに接近すること。
9. 息ごらえをしないよう注意すること。スクーバダイビング中は、絶えず呼吸を続けること。浮上時には排気すること。スクーバ以外では、スキンドайビング前の過度の“深呼吸”を避け、無理をしないこと。自分自身の限界を知り、安全のための余裕を残しておくこと。潜降・浮上時とも速めにかつ度々圧平衡を行うこと。
10. 寒くなったり、疲れたり、ケガをしたり、空気切れになったり、不快になった場合には、水から上がること。その時点では、危険性が増し、もはや楽しめる状態ではないことを理解すること。もし異常な状態が続くようであれば医学的な処置を受けること。
11. ダイブテーブルを理解し、減圧の手順や緊急手順を理解していること。減圧停止を必要としないダイビングを行うこと。反復潜水や高所潜水時やダイビング後に飛行機搭乗を予定している場合には、特に減圧停止を避けること。
12. 上級コースやスペシャルティコースを受講してスクーバトレーニングを継続すること。ログブックをつけ、年間に少なくとも12回はダイビングをするようにすること。